

無線の大容量通信成功

富士通研と東工大、基地局用

富士通子会社の富士通研究所(川崎市)と東京工業大学の岡田健一准教授はミリ波を使った無線通信で毎秒56ギガ(ギは10億)の大容量通信に成功し

た。光ファイバーの敷設が難しい山間部などでの無線基地局間の通信への応用を見込んでおり、2020年ごろの実用化を目指す。成果は米国で開

催される国際固体素子回路会議(ISSCC)で2月2日に発表する。無線通信はスマートフォン の普及で動画閲覧や音楽配信などのデータ通信量が急増し、大容量化が進んでいる。主な無線基地局間は通常、光ファイバーで結ばれているが、山岳部など敷設が困難な場所では、これに代わる大容量の無線通信技術が求められている。